

佐用高等学校
同窓会報

塔 陵

発行所
兵庫県佐用郡佐用町佐用260
兵庫県立
佐用高等学校同窓会
電話 0790 (82) 2434 (代)
FAX 0790 (82) 2719
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/>
印刷所
(資) 谷本弘輝堂



『高校時代の忘れ物 今だからこそ』



同窓会長 谷本 学

高校21回生 (昭和四十四年卒)

寒さ厳しき折柄、同窓生の皆様にはコロナ対策に気を使われながら、日々お過ごしのことと拝察いたします。特にこの冬にはインフルエンザとの二重の感染対策を余儀なくされています。皆様にはご自愛の上、益々ご活躍されますことを心よりお祈り申し上げます。

『May I come in!』廊下での中学生の声に、教室の中から『Please come in!』と若い女性の声。ここは姫路の大学で行われた英語検定三級の二次試験会場。受験生のほとんどが孫と同世代の中学生、その中に混じって古希を迎えた私、現在72歳。

高校を卒業して54年、何かと忘れる事が多くなった。4年前に自宅近くで英語の塾をされている先生と知り合い、何故か無性に英語の勉強がしたくなった。ボケ防止のためでもある。「いいですよ」との返事に意気揚々、その日から週一回の塾通い、あつという間に4年が経った。

2年が過ぎた頃、自分の英語のレベルが知りたいと思うようになり、「英検」へのトライが始まった。70歳にしての3級合格、一年後に「準2級」も何とかクリア。その勢いを借りて2級を受験したが、物の見事に不合格。しかし不思議とショックは無く、レベルの高さにそれは当たり前だと納得。しかも来年の受験に向けて意欲だけは失うことなく、トライし続けたいと思う自分があることに驚いた。

「高校生の時に、もっと真剣に勉強しておけば・・・」との反省然り。

今だからこそ、この歳になったからこそ楽しみながら続けることが出来るのかも知れないと思いついて、早朝のラジオ英語講座に耳を傾ける毎日である。

「青春はすごく密なので」

校長

西坂 美樹

高校31回生（昭和五十四年生）



塔陵会の皆様には、平素より、本校教育活動にご支援ご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、今年の夏の甲子園では宮城県仙台育英高校が東北勢として初の全国制覇を果たしました。このときの仙台育英高校野球部の須江航監督が優勝インタビューで話した内容を紹介します。

「今年の3年生は、入学どころか、たぶん恐らく中学校の卒業式もちゃんとできなくて。高校生活っていうのは、僕たち大人が過ごしてきた高校生活とは全く違うんです。青春って、すごく密なので。でもそういうことは全部ダメだ、ダメだと言われて。活動してても



3学年 修学旅行（U S J）

どこかでストップがかかって、どこかでいつも止まってしまおうような苦しい中で。でも本当にあきらめないでやってくれたこと、でもそれをさせてくれたのは僕たちだけじゃなくて、全国の高校生のみんなが本当にやってくれて。例えば、今日の下関国際さんもそうですけど、大阪桐蔭さんとか、そういう目標になるチームがあったから、どんなときでも、あきらめないで暗い中でも走っていたので。本当に、すべての高校生の努力の賜物が、ただただ最後、僕たちがここに立ったというだけなので、ぜひ全国の高校生に拍手してもらえたらなと思います。」

このような思いは、佐用高校の生徒も同じだと思います。3年生の人たちは中学校の卒業式も簡素化され、高校の入学式も入学行事に変更され、いきなり、2ヶ月間の臨時休業になりました。「家からでるな」「会話はするな」「人と接するな」「ステイホームだ」と制限ばかり言われ、少し感染拡大が収まりかけて活動しようとするたびに次の波がやってきてストップがかかる。そんな繰り返し2年間でした。本来の高校生活は、本当の青春は、ずっと密なはずでした。それが許されない、そんな悔しさを味わった2年間でした。



2学年 修学旅行（沖縄）

今年度に入ってから、世の中の動きを活性化させる方向に舵がきられました。学校教育活動も感染対策に配慮しながら徐々に復活させていきました。3年生の修学旅行は1月に北海道を予定していましたが、直前に北海道でのコロナ感染者が急増し、中止することになりました。しかし、5月ゴールデンウィーク後に、1泊2日でU S Jと京都観光に行くことができました。U S Jでは本校生のためだけにナイトショーが催され、大いに盛り上がり、思い出に残る修学旅行になりました。2年生の修学旅行は11月に3泊4日の沖縄旅行を実施しました。マリンスポーツや平和学習、琉球文化体験など、沖縄を満喫することができました。6月には、食品バザーは控えましたが、塔陵祭も3年ぶりに1日開催することができました。

球技大会や体育大会も復活させることができ、多くの生徒会・学校行事を実施することができました。ただ、残念なことには合唱や校歌を全校生で歌うことなどは、感染拡大防止の観点から実施はしていない状況です。しかし、来年度からは感染に配慮しながら実施できればと期待しています。授業

における、実習や訪問、交流会や見学会、そして部活動なども活性化し、従来の本校のあるべき姿に戻りつつあります。そして、本校のモットーである「明るくいいきいき」「まちを支えるひとづくり」を実践していきたいと思えます。これからは「青春はすごく密」であることを期待しています。

最後になりますが、昨年度、農学科が「旅する蝶アサギマダラ」の好むフジバカマの苗を栽培し、地域の方に提供したところ、多くのアサギマダラが訪れてくれたことを報告しましたが、今年度は西はりま天文台に100株ほど植えました。今年度は全国的にアサギマダラの飛来情報が少ない中でしたが、西はりま天文台のフジバカマには、10月には多いときで1日に20頭を超えるアサギマダラが来てくれ、楽しませてくれました。

来年度も、本校の前庭や天文台にフジバカマを植栽しますので、10月に本校の近くにお越しの際は、是非お立ち寄りください。

塔陵会の皆様のみますますのご健勝とご多幸を祈念するとともに、今後もお一層の母校へのご支援とご協力を賜われますようよろしくお願いいたします。



天文台 アサギマダラ

特 志 寄 稿

スギとヒノキの

皮むき間伐の取り組み



プランニングオフィスハーテック 代表

三 山 茂 夫

私は幼少のころから山で遊ぶのが大好きで、祖父の炭焼きの手伝いをし、祖父と風呂に入って山仕事の話聞くのが楽しみでした。また、父が出勤前にスギとヒノキの苗木を山に運び、その苗木を祖父と母と一緒に植林をしたことが今では懐かしい思い出です。母の話によると、山仕事が好きだった祖父は「山の木がよく茂るように」との想いを込めて「茂夫」と命名したそうです。

高校卒業後は広告業界に進み、高度成長の時流に乗って色々な経験をしました。特に印象に残っているのは兵庫県漁業協同組合さんの業務を通じて知った「山が痩せると海も痩せる」ということ。兵庫県は太平洋と瀬戸内海、日本海に漁場を持っており、西宮市の高校の先生が日本海の海岸に打ち上げられた漂着物を調査したところ兵庫県の浜坂から香美町の海岸に韓国からの漂着物が集中している日本海の潮流は兵庫県北部の海岸にぶつかって北上しているこ

とがわかりました。兵庫県漁連は北陸や東北地方の漁連にも呼びかけて円山川流域の山にブナを植える活動が始まったそうです。

それがきっかけで私は各地で開催される自然保護の活動に参加するようになりました。また活動を通して静岡県の友達から教えてもらった「NPO法人森の蘇り」が2008年から始めている「スギとヒノキの皮むき間伐」を知ることが出来たのです。佐用の山に入ってみると子供の頃に植えたスギとヒノキを父がきれいに枝打ちをしているのに感動し、この



皮むき体験

皮むき間伐を本格的に私の山でも取り組もうと思っていました。そして高齢になつた母親の介護を兼ねた生活を



皮むき・児童

するために帰郷してこの皮むき間伐を始めました。全国的に見て、現在のスギやヒノキが密集した山では、木々がスク

スクと育つための必要な空間がなくヒヨロヒヨロの姿でひしめき合っています。また地面に草や低い木がほとんど生えてなく、木々はしっかりと根を張れないために土をつかむ力も弱まって台風や大雨のたびに倒れる木が目立つようになり、土壌も川に流出します。そのようになってしまった森をみんなで手入れをするのが「皮むき間伐」です。太く立派な木を未来の人々に手渡すために一本一本の木の直径を測って皮むきをする木を選びます。

この皮むき間伐は女性や子供でも楽しく作業が出来る山仕事です。皮むきした1年後には暗かった人工林の木々は葉を落として変化を始める林床に光が入ります。そして今までの土の中で眠っていた種が芽を出して大地には緑が萌えあがり、多くの生き物たちの食べ物や住み家となるのです。「森は海の恋人」といわれているように森を守ることは水を守り、海を守ることに、豊かな漁場を育てることが出来る里山にすることが出来ます。皮むきした木は水分が抜けて軽く



まな板・箸ほか

なり、重機などを使わずに人力で搬出することが出来、軽トラックでの「森仕事」を可能にします。しかも、こうした木々の全てが「天然乾燥材」です。抗菌・殺菌・除湿効果があり、香りも豊かで耐久性も優れているのです。25年程度で耐久性がなくなり、木屑になってしまふ合板と異なり、皮むき間伐材は伐り出したからも強度が高まり続ける優れたものです。製材された間伐材は木工所で壁板や床板に最終加工され街へ届けられます。その際に生まれる端材も箸やまな板などに生まれ変わります。今手入れをすれば日本中に美しい山里や溪流が戻り、森から繋がる恩恵を全身で味わう喜びを未来の子供たちに手渡すことが出来ます。私はこの皮むき間伐を都心部で暮らす人々にも呼びかけて「関係人口」を増やす事業（山仕事）として私の山から取り組み、将来には皆さんと一緒に左用町全体の山林で展開したいと思っています。皆様のご協力とご参加をお願い申し上げます。連絡先：〒679-5321 佐用郡佐用町下石井703 電話：090-3615-2996 Mail：miyama@tikisai.or.jp

特 志 寄 稿

すばらしき「人間教育」



兵庫県立農林水産技術総合センター所長

多 田 勝 利

(旧姓：望月)

【佐用高校入学】

山あり大撫、川あり千種、みどりあかるく、波清し・・・の校歌が響く学び舎に、昭和五十四年四月、春の風薫り、桜花咲き誇る中、先輩・教職員の歓迎を受けた入学式を、今も鮮明に覚えている。式の後、一年一組のホームルームでは、担任の津島大三郎先生、副担任の井瀬俊一先生の自己紹介。津島先生は日焼け顔で茶髪、井瀬先生はとても真面目な教育者。二人とも明るく、気さくで、三年間楽しく学ぶことが出来ると直感した。

【授業の中の気づき】

私の実家は非農家。入学動機も生き物や植物が好きと言うことぐらい。授業は通常の国語、数学、英語などの他に、作物、果樹、野菜などの専門教科があり、植物生理などの知識や実習等がある。専門教科では、両先生の他に篠原・衣笠・山田・木村先生等の指導は、気づくことが多く、刺激的で興味を増した。しかし、当時も農業を取り巻く環境は厳しく、また、農

を教えて頂いた。

【佐用高校卒業後】

自分の人生を考える中、将来、自分が職業により「飯が食える状態」が大切であり、一番の親孝行と思うようになった。卒業後は、当時の日本国有鉄道に入社。駅員や車掌を経験したが、JRに替わる時に、兵庫県職員で農業政策や農業改良指導、新技術開発・新品種育成などを行う農学職の募集があり、先生方から指導を受けた、農業に関係する仕事でも良いとの言葉を思い出して受験した。

【井瀬先生との再会】

県職員のスタートを豊岡総合庁舎で切り、その後、本庁に異動した平成四年に、井瀬先生が県教育委員会勤務の時に、県庁前信号で再会。先生から、今どこに勤めているとの問いに、私は農林水産部と返したら、農業に関係する仕事に就いてくれてうれしいとの言葉。その後も付き合いが続き、先生が県立農業高校校長の平成十七年に、上司と相談して農林水産部幹部と県立の農業高校校長との意見交換等をする会が実現し、今も続いている。先生とは今も頻繁に出会う間柄である。

【先輩である上司】

本庁勤務8年目。本校卒の藤本毅先輩が上司となった。非常に面倒見の良い上司で、頼れる先輩であった。僅か二年間の関係だったが

が、今でもいろいろな場面で声を掛けて頂いたり、気にして頂いたり感謝している。機会があると校歌と塔陵健児を歌った。先輩はいつも、親身になって指導を頂いた高校時代の思い出を語り、関係する方々を大事にしている。

【ふり返りとこれから】

卒業後、転職もあり、辛いこと苦しいこともあったが、振り返ると楽しい思い出。人としての生き方としては満足している。これらひとえに津島先生、井瀬先生をはじめとする教職員が生徒の目線に立ち個性に応じ人間味に溢れた、世の中で生きる力の指導があつたことと感謝。



追伸、全国豊かな海づくり大会に於いて、天皇后陛下が水産技術センターを行幸啓された際に、拝謁、ご説明等の機会を得た。これも本校での経験があつての事と感謝している。さりげなく細心に最後までモットーに頑張り続けたい。

秋晴れや 松にからみしくもの糸

榊原澄子

高校4回生（昭和二十七年卒）

国破れて山河あり
城春にして草木深し ― 杜甫
戦いに破れて三年しかたつていなく
て衣食もたらない時代に新制の佐用高
等学校へ入学しました。戦争中は小学
生の幼い子供まで運動場のすみさつ
まいもを植えたり戦地へ行ってゐる家
の稲刈りを手伝つたりして働きました。
勉強ができるようになりみんな楽しん
で学びました。

都会から疎開（安全な田舎へ帰る）
した人も多くいてクラスの生徒の数も
教室いっぱいでした。一年の国語の村
上先生も疎開された方でした。島崎藤
村の千曲川旅情の歌
”小諸なる古城のほとり雲白く遊子悲
しむ
みどりなすはこへも見えず若草もし
くによしなし
白がねのふすまの丘べ陽にとけて淡
雪流る”
と若い心にしみ入るように読まれ私達
に暗記をさせられました。
立つて詩を暗記するよう指名され私
は口ずさみました。先生はほめてくだ
さり次は俳句や短歌もつくってみたら
といわれ次の時間に

”秋晴れや 松にからみしくもの糸”
とよんで喜んでおりました。
世の中も少しおちついて先生は元の
神戸の大学へ帰られました。ときどき
お便りをくださり神戸に住む私の友人

に私が元気で暮らしているかたずねら
れたことを聞きうれし涙をこぼしまし
た。先生のおかげで今でも高校のこと
はあたたかく なつかしく思い出しま
す。
それからも多くの方々のおかげで
八十八才の米寿まで生きさせていただ
いております。
人生でよい教師や人々、友人と出逢
える高校時代は特に大切に楽しく生き
てほしいと思います。



中列左から3人目が私

雑感 〈故郷を懐かしむ〉

末神 紘

高校13回生（昭和三十六年卒）

本日（令和三年十二月二十五日）「塔
陵第43号」を受け取りました。
何時もの事ですが、「どんな記事が
載っているのだろう」と急いで封
を切りました。

そして、皆様が投稿されているもの
を読ませて頂く中で、私自身もふるさ
とを思う気持ちが目覚めて、「投稿さ
せていただければ」と考えた次第です。
現役時代では仕事の忙しさにかまけ
て、高校まで過ごした田舎をほとんど
顧みることもなく、また思い起こすこ
とも少なくなりました。

それが、年を重ねることに何と「ふ
るさと恋しや」へと変身した様です。
とうとう、令和三年十一月月上旬に
二十数年ぶりに高校迄過ごした口長谷
や利神中学校のあった平福、そして翌
日末神家のルートツ探方を兼ねて江川の
末包地区へ足を延ばしました。

（蛇足）小説「いのちの停車場」の
pageから抜粋、人は人生の後半で懐
かしい土地へ引き寄せられるのか。帰
巢本能ですかね。云々略
という文章もありました。

この旅は佐用駅で下車してから高校
の通学時に通った佐用姫神社、等のコ
ースに沿って、また「うさぎ追いし
かの山、……」の唱歌も口ずさみなが
ら目的地まで汗を流しました。その道
中、あの昭和三十年代に見た活況ある
佐用商店街の景観がずいぶん変わって

いる様子に驚き、過ぎ去った年月の侘
びしさを感じた次第です。但し、同窓
会長さんの「谷本弘輝堂」事務所は当
時のままでしたし、近くの佐用警察署
（昔も今の場所？）の裏側には名物の
大イチョウの木に黄金の葉が繁り素晴
らしい眺めでした。

また翌日には佐高の前の通りで立ち
止まり、校舎を眺めると当時とは若
干変わっていたようにも感じましたが、
振り返り、振り返り学び舎を後にしま
した。余談ですが、今頃家で「塔陵健児」
の歌をよく口ずさむようになりました
が、これも「ふるさととは遠きにおいて
思うもの」ですかね。今回の旅は故郷
を懐かしむよい機会であつたと満足し
ております。

さて、最近新聞の播州版を読んでい
ますと、在校生の多くの方々が故郷を
離れて、それぞれの目標に向かって大
きく羽ばたかれることになりましたね。
とても期待するものですが、同時に高
校生までの過ごし方と違った人生のス
タートを切られることになると思いま
す。何より、健康第一を心がけて何事
にも真面目にコツコツと取り組んで頂
きたいと思います。人それぞれに生き
方は異なると思います。それぞれに生
き方は異なると思います。人それぞれ
へ迷惑をかける事無くおらかな気持
ちとゆとりを持って前へ進んで下さい。
最後になりますが、私が昭和三十年
三月長谷小学校卒業時、校長先生から

頂いたお言葉、「世の中になくてはならない人になって下さい」の一言を紹介させていただきます。心に留めて頂ければ有難いです。

皆さん、故郷を私達が生きていくための活力

「振り返れば私、もう72才」

中島(旧姓西坂)光子

高校21回生(昭和四十四年卒)

の一つにしましうか。八十歳に近い私が申すことですから、感覚的に若い皆さんの意にそぐわない面も多々あるでしょうが、何かのきっかけになれば幸いです。ありがとうございます。

佐用高校を卒業して54年が過ぎ振り返れば私、もう72才。神戸女子大学を卒業してすぐに東京に行き18年を経て主人の転勤で東大阪に居住する事となりました。保険会社で営業をし、のち指導者コースに進み45才で管理職となりました。60才で定年を迎え、さアーこれから夫と愛車で日本中を走り廻り、残りの人生を楽しもうと思っていた矢先、以前から病んでいた夫の体調が急に悪化し、入院して二日後に逝ってしまいました。「ごめんね。」の一言だけを残し帰らぬ人となりました。予測だにしていけない悲しい事態が起こると、人は涙もでないものなんです。家中に夫の気配が残っているのにも居ません。悲しみと寂しさが徐々に押し寄せ、悔しさと虚しさが喉元に上って来る日々が続きました。それから2年たち、3年たちなんとか頑張ってきました。67才の時、新しい仕事のオファーが元、勤めていた関連

会社から入りました。豊岡から兵庫県西部、奈良県全域、大阪市内と車で走り回り、四季を感じながら心癒されておりました。この間にも新型コロナウイルスが世界的に流行し、世の中は不安と恐怖が渦巻き、未曾有の事態となりました。そして、葬儀も家族葬という新しいスタイルがやむなく生まれました。家族友人、知人達に送られる事も許されないう寂しい別れ、なんと、遣る瀬なく痛ましいことなのか。仕方ない事と言ってしまうばそうかも知れないが、歯痒い感情がこみ上げて来る昨今です。お陰様で私はコロナにも罹患せず、今では山歩きをしたり、石仏巡りをしたり、ゴルフも書道もさせていただいております。



令和4年佐用郡美術展 佐用町教育長賞

書道は年をとっても永く続けられると思ひ、昔取った杵柄で再び60才から筆を取る事となりました。今では毎日展をはじめ豊中展、高野山展、安芸展などに作品を出展し、ささやかに自己啓発をし、自分自身のスキルアップを図っております。

ゴルフは長くやっていますが、下手な横好きです。近年になって佐用の同級生のコンペに年3、4回程参加させて頂いておられます。「近頃は体力がついて来ませんが…(笑)」同級生達とのゴルフは気を張る事もなく、楽しくて元気が出ます。帰りぎわには、「元気でせーよ」「無理するなよ」「気をつけて帰れよ」と声を掛けてくれます。それがとても耳に心地良く響きます。このような場を設けてくださる同級生達に感謝、感謝です。若い頃は子育てや仕事に追われ、ふ

通学の思い出

『聞けや世紀の潮のひびき』

生徒歌を作詞された繁延照夫先生が母校の教壇で教授された現代国語を聴講できたのは、私たちが最後の学年と聞いております。木造の学び舎で高校生活を過ごした私たちの世代も、卒業後すでに五十年近くが経過しようとしています。

私は、旧上月町の幕山地区から佐用の山田地区を経由し、約四十分を要し、佐用高校まで自転車通学をしていま

る里は遠くの存在でしたが近頃は故郷(ふる里)に心が惹かれます。今年初めて佐用郡美術展に参加させて頂きました。改めて、「ふるさと」との繋がりが出来嬉しく思っています。

最後になりましたが「塔陵」を拝読させて頂き、高校生の地域活動、地元の方々の御活躍等々多くの人達の御尽力を改めて受留めさせて頂きました。佐用の発展を考え、守って下さり、有難うございます。本当に脱帽と感謝です。



森本芳和

高校27回生(昭和五十年卒)

た。山田地区には急勾配の峠があり、自転車を押してその頂上まで進み、あとはひたすら坂道を下るといふ登下校でした。春は田植えの終わったばかりの青田に鳴く蛙の声を聞き、夏は黒い学生ズボンの裾をまくり上げ、タオルで汗をぬぐいつつ自転車を押す。秋ははげに掛けられた稲束を横目で見つつ、すくも焼く匂いのなか家路を急ぎ、冬はすり減った自転車のタイヤを気にしつつ雪道を通学する三年間でした。

高校生の私は、現国も古典もからつきしついでいけない生徒でした。何とかならないものかと考え、帰路の途中、山田の峠近くにお住いの繁延先生宅に一度だけお邪魔しました。その時、満面の笑顔で迎えてくださった先生の顔がいまでも忘れられません。

田舎から一刻も早く都会へ向かいたいと意気込んでいた我々の世代も、私を含め多くは社会的活動の場から一線を退き―一部に、生涯現役の方もいらつしやいますが―静かに日々を過ごす

生活となりました。

コロナの感染対策が少し緩和されたのを機に、同級生の何人かが発起して久しぶりのクラス会を今年の十一月に開催して頂くこととなりました。残念ながら、もう再会が叶わなくなった同期も何人かいますが、大半は残る時間を楽しく、有意義に過ごしたいという面々が多いようです。同窓の方たちと共に、マスク着用を厳守しつつ、懐かしい生徒歌「塔陵健児」を口遊むことができればと思っています。

「佐用町と共に」

地域協働部長・家政科長

岩崎 由香子

家政科では、令和2年度に文部科学省より指定を受けた「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（プロフェツショナル型）」に三年間取り組んでいきます。研究をはじめにあたり、佐用町との協議を重ねてテーマを決め、「食」を通じてローコスト・ハイクオリティ社会の実現を目指すプロフェツショナル人材の育成（佐用風土（Sayo Food）を活用したモデルプランの構築）として、

佐用町の課題解決と家政科での学びを照らし合わせて様々な取組をしてきました。この開発名のもと、具体的に事業を展開していくために三本柱のテーマを設定しました。一つ目が「佐用



給食サービス

の特産品を活用（特産品を使用した商品開発）、二つ目が「佐用で暮らす人を守る（健康寿命の延伸）」、三つ目が「佐用の水害から学ぶ（安全・安心なまちづくり）」です。



高校生レストラン

一年目の取組では、主に知識の定着を図ることを中心に授業を構成しました。佐用町役場の方からの講義や調べ学習を通して、佐用町を知るところから始めました。その結果生徒には地域と協働しながら学んでいくという意識が高まりました。二年目には実際に地域との協働事業に取り組み、フィールドワークを多く行いました。令和4年度は三年目となり、協働事業を行いながら研究の集

大成として成果の検証や次年度以降の継続に向けての計画を行っています。まずは三本柱それぞれでの取組の一例を紹介しま



訪問サービス

①「佐用の特産品を活用（特産品を使用した商品開発）」

2年生「課題研究（食物）」の授業で、佐用町・生産業者・加工業者・栄養士の方々と佐用町の特産品を使った商品開発を行っています。今年度は健康寿命や防災分野を意識し、「佐用もち大豆バー」と「夢茜トマトと佐用もち大豆のスープ」を開発しました。姫路で行われたイベントで佐用町や佐用高校をPRし、即売会では商品を完売させることができ、生徒には大きな達成感が得られていました。

会話やレクリエーションを通じて交流を行っています。高齢者には大変喜んでいただき、生徒は佐用町の高齢化の現状を目の当たりにすることで、地域貢献意識が高まっています。

③「佐用の水害から学ぶ（安全・安心なまちづくり）」

昨年度初めて実施した「佐用合同防災訓練（KINUNO大作戦）」を2年生「課題研究（福祉）」選択者を中心に企画中です。今年度も佐用町役場をはじめ佐用小学校の児童や近隣住民の方に参加していただき、佐用消防署、ドローン減災士協会、兵庫県立大学の教授や学生の方々と協働で実施する予定です。

本事業を行うことで生徒たちには課題発見解決能力やコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など様々な力の向上を実感しています。また、各種検定の合格やコンテストでの入賞など、具体的な成果も多く見られました。今年度は研究最終年度ということで、たくさんの方々の成果発表の場も提供していただいています。中でも、大きな発表会として青森県で行われた「全国産業教育フェア2023」では代表生徒が発表を行い、展示やワークショップを通じて佐用町や佐用高校での活動を全国に向けて十分にPRすることができました。文部科学省からの指

定は今年度終了しますが、佐用町と共に歩み続ける佐用高校として今後も協働事業を継続し、魅力ある学校づくりをしていきたいと思っています。

②「佐用で暮らす人を守る（健康寿命の延伸）」

2年生「ヒューマンサービス」の授業で、社会福祉協議会との協働で「給食サービス」に参画しています。独居高齢者などを対象にしたお弁当の配食サービスなどを対象にしたお弁当の配食サービスで、献立から生徒自らが考案し、お品書きをパソコンで作成、はがきを付けて感想や要望を聞くという双方のサービスを展開しています。予想以上に返信があり、好意的な感想や感謝の言葉に生徒たちは自己肯定感が高まり、主体的な学習につながっています。3年生「ヒューマンサービスII」では、「高校生訪問サービス」を実施しています。今年度は4回、生徒が佐用町在住の高齢者世帯を訪問し、



商品開発販売会

在校生だより

ヒマワリ栽培補助ボランティアに参加して

第1学年 森脇 心希

「見渡す限りのひまわりとは、まさにこのことか」と、畑の真ん中で思いました。私は7月にひまわりの栽培ボランティアを行いました。佐用町では毎年、一部の水田を利用し、ひまわりを栽培して

「佐用町南光ひまわり祭り」を開催しています。佐用町南光地区では時期や場所をずらして合計69万本のひまわりを栽培しており、長い期間畑一面に広がるひまわりを楽しむことができます。例年多くの観光客が訪れており、佐用町の観光の目玉にもなっています。今回私が参加させていた、だいたひまわり栽培地区では、約6.6haの畑に33万本のひまわりを栽培しています。南光でひまわりの栽培を行っている3つの地区の中で最も広い面積でひまわりを栽培しています。ボランティアでは発芽したひまわりの間引き作業を行いました。作業内容の説明を聞き、実際に作業を行う畑に行ったとき、驚きました。何枚も並ぶ畑、そこに綺麗に並んで栽培されているひまわり。その広さと本数に言葉が失いました。実際に畑に入り作業開始。50cm程の高さのひまわりが列を作っています。このひまわりを株間30cmから40cmくらいの間隔になるように間引きを行っていきます。作業自体は簡単ですが、感覚をつかみだんだん作業を進めることができました。しかし常にしゃがんだ状態での作業で足や腰が痛くなってき

ました。それだけではなく日差しが強くてほとんど体力が奪われていきます。たった3時間ほどの作業でしたが終わるころにはへとへとになって体力は残っていませんでした。

作業をしている中で地元の農家の方から話を聞く機会がありました。

「昔は何もない田舎だったけど、夏になるとひまわりを見に大型バスがたくさん来るようになった。信じられない。」

「街おこしとしては大成功。しかし、住民が増えるわけではなく、高齢化が進むばかり。」

「今日は間引きをしてもらっているけど、大変なのはこれだけではない。発芽していかないところに間引きした苗を植えていく作業もする。植え替えたら水やりをしないといけないが、畑に水道はない。ずっと向こうの用水路でバケツに水を入れて運んできて1本1本ひしゃくで水をやっていく。」

「このあとは草取り。これができるかできないで生育が全然違う。」

私は話を聞いてその場面を想像するだけで気絶しそうになりました。

ひまわりを綺麗に咲かせるのはこんなに大変なのか…。

「多い年では佐用町で7地区がひまわりをしていたが、今では3地区に減ってしまっただけ。」

「今回してもらっている間引き作業をしているのは林崎だけ。他の地区はできないか、しなくても咲く小型のひまわりを栽培している。」

「このままでは…という危機感を誰もが持っている。今回来てもらって本当に助かっている。」

今回参加させていただいた林崎地区でひまわりの栽培を行っている方の多くは80代や90代で一番若い方でも65歳だと聞

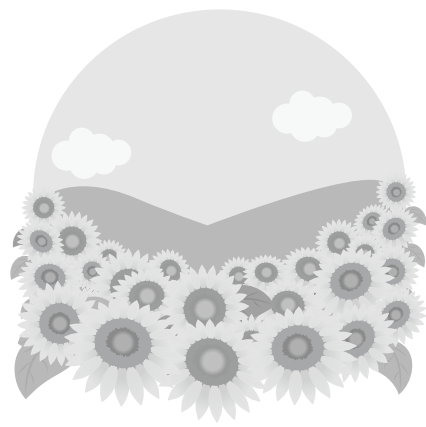
きました。そんな高齢の方が1人や2人で1枚の畑のひまわりの間引きをしている。考えただけで気が遠くなりそうでした。授業で聞いた農業の問題を思い出しました。

現在日本では農業従事者の高齢化が深刻化していると授業で聞いたことがありますが、この問題はひまわり栽培においても例外ではなかったのです。毎年多くの観光客を楽しませ、佐用町に活気をもたらしているひまわり祭りもこのままでは開催が難しくなってしまうかもしれません。そうさせないためにも私にもできることがないか考えました。しかし農業を学び始めたばかりの私にできることは多くありません。まずは高校3年間しっかりと作物の栽培や家畜の飼育についての知識や技術を学んでいきたいと思っています。たくさん知識をつけることで私にできることが次第に増えていくと考えています。

ボランティアが終わってから先生と話をしました。この地域を支えるためにもっとできることはないだろうか。今回のボランティアは1年生の中から希望者を募り、4日間、延べ70人の1年生が参加しました。来年は1、2年生に呼び掛けてはどうか。あるいは3年生も含めて全校生徒から希望者を募って参加するのでもいい。保護者に呼び掛けて参加してもらうのはどうか。今回は職員との知り合いに話が伝わり、興味を持って参加された方もおられた。

今年林崎地区で行いましたが、佐用町でもひまわり栽培をしている地区は他にもあるので、手分けして他の地区にもボランティアに行くことも考えられなくはない。高校生にできることは結構ある。私たち高校生の力で佐用町のひまわり畑をもっと活性化させることはできると思

います。私が思う農業の魅力は仲間と協力して出来ることと地域の人たちの笑顔を見れることです。私たちは地域の人たちの笑顔のため、少しでも多くの人に農業の魅力を知ってもらうために、一生懸命頑張る、農業の重要性を広めていきたいです。そして今回私が実感した農業の問題を少しでも解決したいです。



「私とつじの絆」

第2学年 梶山 果梨

この度、全国和牛能力共進会最終予選兵庫県畜産共進会に佐用高校「産」雌牛のつじ号を出品しました。兵庫県畜産共進会とは、日本で最も歴史のある和牛の審査会です。より能力の高い家畜の生産により、畜産経営の安定化と消費者の食の安全、安心を推進するため、参加した家畜の改良成果を検証する大会です。

また、全国和牛能力共進会は、5年に1回全国の優秀な和牛が一堂に集まり、体格や品位、肉質を競う全国規模の大会で「和牛オリンピック」とも言われています。全共鹿児島大会を目指して、私は但馬牛の全てが分かる但馬牧場公園にある展示物を拝見したり、ネットで調教の勉強をして日々コツコツと取り組んできました。私はハンドラー担当をし、新しく調教用の縄を購入しました。新しい縄は凄く硬く、調教するまでに、毎日毎日縄を引っ張って調教の練習をしました。縄が柔らかくなった時に、つつじの鼻環につけ歩かせたり、止まらせたりして、姿勢を直したり、牛を良く見せたりと調教を重ねました。しかし、私よりも体も大きく力強いつつじに負けてしまい、加えて私自身前日の部活で右足を脱臼してしまい、思うように調教できず「補欠」となっていました。

全共チームが解散し、最後のチャンスとして県共の準備を始めました。夏休みは私自身の手術の影響でつつじに会えなくなっていました。そこからつつじの存在が大きい事に改めて気づきました。二期が明けて、後輩たちのサポートもあり、予選の農大、高校枠で見事に最優秀賞を獲得しました。予選までに左お枕をわざわざうりてこすったり、前駆の幅と張りを富く充実するために心肺機能向上でよく運動させ強健性のある牛になれるよう努力しました。本選までに、森脇畜産で研修させて頂き、牛各部位の見方、畜産農家さんの取り組みの勉強、調教ロープの大切さを学びました。毎日休むことなく夜遅くまで牛舎の管理、つつじの調教をくり返す日々を過ごしました。調教ではつつじに甘えさせたり、優しくすることができません。つつじに響かせるためにはロープ技術、大きな声で周囲の物事に

耳を傾けないことです。それは一回や二回でできる物ではありません。長年経営されている農家さんに食らいつくことに必死でした。毎日つつじを見て、毛刈りや、シャンプー、手入れなどをして本番当日を迎えました。いつもと違う周りの空気につつじは緊張をしているのかあまり餌料を食べにくれませんでした。新鮮なチモシーや細かく刻んで食べやすくしても、繊維であるパワーバガス・配合しか食べてくれず、お腹の下がポテツとしてしまつて居る時に、色々な行事でよくお世話になつていた他校の方々から粗飼料を頂き、つつじも気に入つて食べて反すうしながら会場へ挑むことができませんでした。しびれている雰囲気、強くロープを握りしめている右手、横にはパートナーのつつじ、予選後何とかゼッケン番号を呼ばれ、安心しましたが、私と同じように予選を抜けた高校生が居ない事から緊張し、私の緊張が伝わったのかの様につつじも興奮し、私一人では調教できなくなっていました。ですが、ハンドラー補助をされている農家さんが助けて下さり、ラスト審査は終了しました。この時に助けて下さった農家さんの「牛飼いの娘でもないのにここまでたどりついたのは凄いぞ。頑張った分だけ実るから来年の嬢ちゃんの姿楽しみにしてるぞ。」という言葉聞いて私は、来年も出場できるように努力しようと思いました。

残念ながら結果は、席には入れませんでした。昭和から佐用高校の血統を引き継いでいるつつじ号は優秀賞に選ばれました。もうつつじと共進会に出場できない事は悲しいですけど今、つつじのお腹には新しい命が宿っています。これからは水やお産のサポート、つつじの子のミルクやりなどサポートをし、畜産業に携われるよう今一度努力します。

地域協働活動で学んだこと

第3学年 岡田 萌夏

私たち家政科75回生は、3年間地域協働活動に取り組んできました。入学前は全く知らなかった佐用町の水害や少子高齢化、特産品について1年生から講義や地域活動を通じて学び、自分たちが佐用町のためにできることを考えて活動してきました。

様々な活動の中で私が特に印象に残っていることは、「佐用合同防災訓練」KIZUNA大作戦」と「高校生訪問サービス」です。合同防災訓練では、地域を巻き込んだ防災訓練の企画と運営に携わらせていただきました。佐用町役場をはじめ、多くの機関に協力していただき、当日のスケジュールや体験学習を考えました。大規模な行事を考えることに大きな不安を感じながらも「みんなに楽しく防災を伝えたい」という気持ちで、準備を進めました。当日は企画してきたことを無事に成功させることができ、大きな達成感と自分たちの成長を感じました。高校生訪問サービスでは、佐用町の高齢者の自宅を訪問し、自分たちで考えた健康体操やレクリエーションを実施しました。高齢者の方と関わることは慣れておらず、交流前はうまくコミュニケーションが取れるかとても不安でした。しかし、訪問先の方にとっても喜んでいただき、「また来てほしい。」と言っていただけのことにとっても嬉しく、地域活動のやりがいと、地域に貢献できたと感じました。

私たちが取り組んできた3年間の活動を青森県で全国に発表すると知った時は、想像も出来ず、私たちに発表が出来るのかとても不安になりました。3年生の夏休みから本格的に発表準備が始まりました。毎日学校へ行き、今までの活動をスライドにまとめました。1番苦労したことは、3年間の活動を15分に収めることです。どの活動も思い入れのあるものばかりで、スライドや原稿を削ることがとても難しく、どうしたら15分で私たちが行ってきた活動を正確に伝えられるかを先生と考えながら作りました。発表練習では、原稿を覚える事に必死でなかなか感情が入れられず、とても苦労しました。自分たちの発表を撮影し、動画を何回も見返して、抑揚や声のトーン、強調する所をどのように表現すれば自分たちの思いが伝わるか話し合っており、改善していききました。そして、10月に開催された「全国産業教育フェア青森大会」で発表しました。リハールで初めて会場に行き、人の多さと会場の大きさにとても驚きました。練習通りに発表が出来るか不安になりましたが、全国から高校生が集まっているこのような場で、私たちの活動を発表させていただけるとはとても貴重な経験だと感じました。発表当日もギリギリまで練習し、本番に臨みました。発表はとても緊張しましたが、今までの1番いい発表が出来たと思います。当日はワークショップや展示にも沢山の人が来て下さり、佐用町や佐用高校のことを広報することが出来ました。他県の高校生とも交流を深め、家政科とはまた違った体験活動や商品販売をされており、驚くことばかりでした。学んだ事を佐用高校でのよりよい活動につなげていきたいです。あと少ししかない高校生活ですが、最後まで私たちが出来る地域協働活動を精一杯頑張りたいと思います。

母校だより

母校の近況

教頭 上田 貴哉

今年度は、現在の3年生が、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、1月の北海道修学旅行に行くことができず、5月に入って大阪・京都に場所を変更して修学旅行を実施することができました。その後、新型コロナウイルス感染症が少しずつ減少傾向に転じ、校内の感染者も減少傾向となり、感染防止対策を行いつつ6月に、3年ぶりに塔陵祭を実施することができました。塔陵祭では、吹奏楽部の演奏、各学年、クラスの劇や展示、また、家政科のファッションショーを実施することができました。また、9月末の体育大会では、感染防止対策に注意しながら、昨年度の半日実施から1日実施へ変更し、多くの競技を保護者の方に来ていただくため実施することができました。実施できた行事では、本校生は明るく元気に生き生きと参加し、活動することができました。家政科は、文部科学省「地域との協働による高等学校改革推進事業」の研究指定校に選ばれ、令和2年度より3年間、地域の課題解決を通して新しいカリキュラム開発に取り組み、3年目の最終年を迎え、10月には、青森県で行われる産業教育フェアの全国大会で3年間の成果を見事に発表することができました。

部活動では、陸上競技部が総合体育大会において、やり投げで近畿大会に出場することができました。また、写真部では、「プロの視線」という車の板金塗装業を営む父親が活写したモノクロ写真を全国高校総合文化祭(写真部門)に出場が決定し、高校生向けのビジネスプランコンテスト「高校生みんなの夢アワード」では、「佐用町の8割が森林」という新聞記事などを

ヒントに森林を活用した施設整備や体験イベントを思いつき、事業案にまとめ上げ、ファイナリスト10名に選出され、全国大会出場を決めることができました。家政科では、「全国プレゼン甲子園」において3分間のプレゼン動画を審査され、441組の中から10組のファイナリストに選ばれ全国大会に出場することができました。全国大会出場については、新聞記事として取り上げていただき、佐用高校を知っていただく良い機会となりました。

就職では、一昨年、新型コロナウイルスの影響で求人数が減少しましたが、昨年度から求人数は増加に転じ、今年度は、昨年以上の求人数をいただくことができています。現在の就職内定率は、11月1日現在61名で、内定率は95%となっています。

進学では、夏から各種推薦型入試が実施されています。11月1日現在、私立短期大学へ7名の生徒が合格しています。昨年に引き続き、入学金や授業料の減免を扱う入試制度に挑戦する生徒も増えています。進路指導部と3学年団は、各教科と連携して、夏以降早朝・放課後の補習や面接練習に加え、様々な個別指導に対応し実施しています。今後は、私立、国立推薦入試・大学入学共通テスト、公立一般入試・国立大学二次試験対策を中心に、進路実現に向け学校全体で取り組んでいます。

令和4年度 佐用高校生の活動状況

- 1 運動部(主な戦績)
- 男子バスケットボール
 - 前期西播大会 53.54 市川
 - 二回戦 62.37 飾磨
 - 夏季西播大会 45.20 相生
 - 二回戦 87.0 相生
 - 女子バスケットボール
 - 前期西播大会 150.0m 中野
 - 二回戦 100.0m 葵
 - 11.92

- バドミントン
 - 西播総合体育大会(個人の部)
 - 男子ダブルス ベスト8
 - 中嶋・船引組 (県総体出場)
 - 女子シングルス ベスト16
 - 三木日菜乃ス (団体の部)
- 男子バレーボール
 - 前期西播大会
 - 1回戦 対 琴丘 0-2
 - 2回戦 対 山崎 0-2
 - 1回戦 対 関西学院 0-2
- 西播リーグ戦
 - 棄権
- 県選手権大会西播地区予選
 - 2回戦 対 飾磨 0-2
- 女子バレーボール
 - 前期西播大会
 - 1回戦 対 千種 2-2
 - 2回戦 対 相生 2-0
 - 準々決勝 対 姫路南 0-2
 - 1回戦 対 北摂三田 2-0
 - 2回戦 対 明石商業 0-2
- 西播リーグ戦
 - 5部 対 飾磨 1-2
 - 2回戦 対 相生産業 1-2
- 陸上競技
 - 西播高等学校陸上競技対校選手権大会
 - 男子やり投 1位 福本 友優 47m97
 - 権大会
 - 兵庫県高等学校陸上競技対校選手権大会
 - 男子やり投 4位 福本 友優 54m80
 - 権大会
 - 近畿高等学校陸上競技対校選手権大会
 - 男子やり投 出場 友優 49m99
 - 権大会
 - 西播ユース陸上競技対抗選手権大会
 - 男子1年 100m 中野 葵 11.92
 - 1500m

- サッカー
 - 西播リーグ
 - 第1節 対 網干 4-0
 - 第2節 対 香寺 1-0
 - 第3節 対 淳心 1-0
 - 第4節 対 夢前・附属 1-1
 - 第5節 対 姫路別所 1-1
 - 第6節 対 東洋 5-1
 - 第7節 対 姫路南 2-1
 - 第8節 対 飾磨B 4-2
 - 第9節 対 上郡 4-2
 - 第10節 対 姫路商業 4-1
 - 県総体
 - 1回戦 対 明石北 0-2
 - 2回戦 対 甲南 2-2
 - 県選手権大会西播地区予選
 - 1回戦 対 甲南 1-2
- 卓球
 - 県総体西播予選
 - 男子団体戦
 - 一回戦 対 伊和 3-1
 - 二回戦 対 姫路工業 0-3
 - 男子シングルス
 - 寺谷 五回戦進出 ↓県大会出場
 - 県新人西播地区予選
 - 男子団体戦
 - 一回戦 対 1-2
 - 二回戦 対 3-3
 - 男子やり投
 - 権大会
- ソフトテニス
 - 前期西播大会
 - 団体戦 1-2 上郡
 - 個人戦 谷本・山中ペア
 - 県大会
 - 個人戦 ベスト32

- 柔道
 - 県総体
 - 男子団体戦、男子個人戦、女子個人戦出場
 - 県新人大会出場
 - 上郡 1
 - 龍野 8
 - 姫路 10
- 文化部(主な活動)
 - ESS
 - 高校英語スピーチコンテスト西播支部大会出場
 - 神戸日米協会 高校生英語暗誦大会出場
 - 吹奏楽
 - 第69回兵庫県吹奏楽コンクール西播地区大会銀賞
 - 第157回高等学校吹奏楽演奏会
 - 第336回アンスンブルコンサート
 - 美術
 - 兵庫県高等学校総合文化祭出品予定
 - 西播高校美術展出品予定
 - 華道
 - 塔陵祭展示
 - 茶道
 - 令和4年度兵庫県高等学校文化連盟西播支部研修会参加
 - さよう文化祭参加
 - 楽
 - 佐用町桜まつり参加(4月)
 - 第63回兵庫県高等学校邦楽連盟西播支部演奏会参加(8月)
 - さよう文化祭、清流の郷音楽祭参加(11月)

高田・宮部ペア 4:16.96
 油谷・阿曾ペア 4:19.25
 1回戦0-4 篠山鳳鳴
 後期西播大会 0-3 龍野
 団体戦 0-3 姫路東
 男子5-0 垣谷 涼太 4:24.37
 6位 垣谷 涼太 1:28.52
 西播高等学校 2名 涼太 1:28.52
 校選手権大会 コニヤ陸上競技対

- 10月 全国大会 農業鑑定競技会 出場
- 9月 第103回兵庫県畜産共進会 優秀賞
- 7月 第70回兵庫県学校農業クラブ連盟大会
- 6月 校内意見発表会
- 5月 第1回農業クラブ総会
- 4月 農業クラブ説明会
- 3月 農業クラブ・家庭クラブ・生徒会等(主な活動・成績)
- 2月 兵庫県短歌祭
- 1月 第57回新しい農業をめざす高校生等のつどい
- 11月 第104回兵庫県畜産共進会
- 30回 西播春季写真コンテスト 入選 2年 横田 蒼空
- 30回 兵庫県春季写真コンテスト 入選 2年 竹下 拓
- 46回 全国高等学校総合文化祭 京大会
- 31回 西播秋季写真コンテスト 特選 2年 横田 蒼空
- 22回 横田 蒼空
- 12回 川元 瑠奈
- 1年 高田 奏音
- 46回 兵庫高等学校総合文化祭 写真部門展
- 春・秋季コンテスト 西播支部代表 作品展(12月)
- 第46回 兵庫高等学校総合文化祭 道展 兼 第68回 兵庫高等学校書道展
- 第38回 成田山全国競書大会
- 科学同好会
- 千種川水温調査(8月) 参加
- 千種川水生生物調査(9月) 参加
- コンピュータ同好会
- ワープロ検定の勉強
- プログラミングの勉強
- 放送
- NHK杯高校放送コンテスト 兵庫県大会地区予選 アナウンス部門 出場
- 体育大会 放送及び司会進行
- オンラインハイスクール 学校紹介 映像作成
- 読書感想文
- 令和4年度播磨西高校読書感想文コンクール 福田 依舞
- 作文発表等
- 1年 本種 菜和
- 2年 上山 紗和
- 人権さよ
- 今年度は、コロナウイルス感染拡大のため、東日本大震災復興支援ボランティア活動は中止。
- 交通安全マスコット配布
- 街頭募金活動
- 11月 後期家庭クラブ総会
- 2月 福祉施設訪問(2年)
- 「ふれあいの里」上旬 定期販売「龍北工房」焼菓子・ジャム販売
- 1月 日感謝祭(商品販売)、上月 日感謝祭(商品販売)、上月 日感謝祭(商品販売)、上月 日感謝祭(商品販売)
- 11月 交通安全マスコット配布
- 8月 佐用町文化祭(ファッショ)
- 5月 感謝祭(商品販売) 製作
- 4月 前期家庭クラブ総会
- 3月 塔陵祭(商品販売)
- 6月 オールハイスクール補助
- 8月 家庭クラブ指導者養成講座
- 2月 参加

令和3年度 同窓会会計決算書

収入総額 4,324,782円
 支出総額 3,165,262円
 差引残額 1,159,520円 … (次年度へ繰越)

収入の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	過不足	摘 要
繰越金	1,845,975	1,845,975	0	前年度からの繰越金
会費	1,985,000	1,960,500	△ 24,500	
入会金	149,000	150,000	1,000	
会費	1,836,000	1,810,500	△ 25,500	
雑収入	319,025	518,307	199,282	
諸収入	9,300	9,820	520	同窓会名簿売上代金
寄付金	303,700	508,463	204,763	
協力金	6,000	0	△ 6,000	
利息	25	24	△ 1	
計	4,150,000	4,324,782	174,782	

支出の部 (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	残 額	摘 要
総務費	380,000	38,132	341,868	
事務費	30,000	30,000	0	事務局事務費
会館費	300,000	0	300,000	
通信費	30,000	8,132	21,868	通信連絡費
旅費	20,000	0	20,000	
事業費	2,270,000	2,127,130	142,870	
広報費	1,500,000	1,519,910	△ 19,910	会報発行費
会議費	50,000	7,220	42,780	本部会議費
慶弔費	20,000	0	20,000	
後援費	350,000	300,000	50,000	部活動後援会補助金
負担金	300,000	300,000	0	佐用高校を育てる会
助成費	50,000	0	50,000	
積立金	1,000,000	1,000,000	0	周年事業計画積立金
予備費	500,000	0	500,000	
計	4,150,000	3,165,262	984,738	

同窓会の動き

副会長 福本 美昭

高校21回生（昭和四十四年卒）

令和4年 4月8日（木）第77回生 入学式
 令和4年 5月24日（火）佐用高校を育てる会
 令和4年 6月22日（水）第1回本部役員会
 令和4年 7月30日（土）塔陵会総会（コロナ感染拡大防止のため中止し、書面決議）
 令和5年 1月1日（日）同窓会報「塔陵」第44号発行
 令和5年 2月27日（月）第75回生 同窓会入会式
 令和5年 2月28日（火）卒業証書授与式

令和4年度 在籍生徒数

(11月1日現在)

学 年	1 年			2 年			3 年			計			学級数
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
普通科	50	38	88	43	35	78	53	47	100	146	120	266	9
農業科学科	25	4	29	23	8	31	30	8	38	78	20	98	3
家政科	1	37	38	1	23	24	0	35	35	2	95	97	3
合 計	76	79	155	67	66	133	83	90	173	226	235	461	15

進路状況 令和3年度（74回生）進路状況

	合 計			農業科学			家 政			普 通		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
卒業 者 数	85	85	170	28	5	33	0	34	34	57	46	103
進 学	大学（通信制含む） 17 12 29 2 1 3 0 1 1 15 10 25 短期大学 1 5 6 0 0 0 0 1 1 1 1 4 5 専修・各種学校 30 35 65 3 1 4 0 15 15 27 19 46 その他・未定 0 1 1 0 0 0 0 1 1 0 0 0 0 計 48 53 101 5 2 7 0 18 18 43 33 76											
就 職	民間企業 32 23 55 22 3 25 0 11 11 10 9 19 公務員 3 0 3 1 0 1 0 0 0 2 0 2 2 縁故 2 3 5 0 0 0 0 3 3 2 0 2 2 家事手伝い・その他 0 6 6 0 0 0 0 2 2 0 4 4 4 計 37 32 69 23 3 26 0 16 16 14 13 27											

令和4年度 新役員・新代議員

【同窓会本部役員】

会長 谷本 昭学
 副会長 福本 美昭
 監事 金澤 孝美
 古淵 良
 小林 君
 三角 雅昭
 分元 彰宏
 幸田 彦

【校内委員】

校長 西坂 美樹
 教頭 上田 哉
 事務長 志水 幸貴
 事務員 春名 隆史
 教職員 田中 昌史
 鎌田 洋
 谷口 内
 竹内 正
 光森 章
 藤木 裕子

【新代議員】

第七十四回生（令和四年三月卒業）
 三年一組 妹尾 麗
 三年二組 山下 唯
 三年三組 田中 美
 三年四組 保内 敬太郎
 三年五組 河内 佑
 矢野 稀
 竹田 蒼太
 藤田 太

令和4年度職員人事異動

◎転退職（新所属）

田口 一仁
 西はりま特別支援学校
 松葉 康秀
 退職
 水谷 真介
 龍野 真帆
 牛濱 美帆
 宮本 佳代子
 龍野 智和
 江口 智和
 岡 祐依
 岡 祐依
 小谷 美香子
 三田 西陵高校
 寺西 勇司
 市立明石商業高校
 坂口 麻理子
 上郡 寛臣
 田中 寛臣
 農 業 寛臣
 中嶋 秀彰
 琴川 加代子

◎転入（旧所属）

志水 幸代
 千種 幸代
 吉田 順一
 姫路 順一
 宮崎 浩隆
 宮崎 浩隆
 西田 晶穂
 市立琴丘高校

追悼

ご逝去されました同窓会員の皆様
 哀悼の誠を捧げるとともに、心から
 ご冥福をお祈り申し上げます。

佐用高校イメージキャラクター



本江 陽奈
 香寺 奈実
 松本 奈実
 相生 産業高校
 浦崎 剛士
 福松 勝汰
 福田 勝汰
 宮崎 哲也
 宮崎 哲也
 新規採用
 任期付講師
 中田 真佑
 中田 真佑
 杉村 朱里
 杉村 朱里
 但馬 農業高校
 前田 曜一郎
 前田 曜一郎
 妙見 典嗣
 妙見 典嗣
 龍野 北高校
 山本 正人

同窓会ニュース

同窓会のホームページを開設しました。
 内容は同窓会ニュース、同窓会だより（同窓会報「塔陵」）も掲載中です。是非ご覧ください。
 *ホームページアドレス
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~sayo-hs/dosokai/index1.html>

塔陵会 会員の皆様へ
 同窓会報「塔陵」をご愛読いただき、ありがとうございます。今年一回の発行ですが、会員様からの声や母校の現況をお届けしています。今回、2名の卒業生の方より「原稿を送ります」との、嬉しい申し出がありました。もっと多くの会員様の声を掲載したいとの思いから、次号（2024年1月発行）に向けて、懐かしい佐用高校での思い出や卒業されたからの人生経験、そして後輩へのメッセージ等寄せただければ幸いです。皆様からの投稿をお待ちしています。